

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2020年10月7日

報告書名：令和2年度 事業完了報告書 (JPF)

令和2年度 JPF 完了報告書

事業名	ナンガハル県における新型コロナウイルス感染予防のための啓発と衛生用品および緊急食糧配布事業 Awareness raising on COVID-19 and provision of hygiene kits and food items in Nangarhar province	
事業対象地	アフガニスタン ナンガハル県	
事業期間	事業期間：2020年4月27日～2020年8月12日	
公的資金種別	ジャパン・プラットフォーム	
予算	総支出：15,000,000円	
プロジェクト目標および、その達成度	本事業では、「ナンガハル県において国内避難民・帰還民を含む生活困窮者が、新型コロナウイルス（以下、COVID-19）感染予防に必要な啓発を受け、衛生用品と緊急に必要な食糧の配布を受けることにより、感染拡大を防ぐと同時に当面の生活を維持する」を目的に事業を実施した。ナンガハル県およびクナール県において、国内避難民・帰還民を含む生活困窮家庭の合計730世帯が、COVID-19感染予防に必要な啓発を受け、衛生用品および当面な生活に必要な食糧を受け取った。これにより日々の生活に困窮していた生活困窮者の基本的ニーズが満たされた。	
実施内容 概要	(1) 衛生用品および緊急食糧配布 事業計画当初は、ナンガハル県 Daman 地区の500世帯への配布を予定していたが、COVID-19感染拡大の影響により、緊急食糧および衛生用品、感染予防のための啓発のニーズが非常に高いことから、以下の通り、事業地および配布世帯数を追加した。 ・ナンガハル県 Daman 地区500世帯 ・ナンガハル県 Kama 郡 Landabuch 村100世帯 ・クナール県 Asadabad 郡 Teesha 村130世帯  国内避難民・帰還民を含む生活困窮家庭、計730世帯に対し、1世帯当たり10人分とし、少なくとも1カ月間生活できる食糧と、衛生用品、COVID-19感染予防の方法を記載した啓発パンフレットを配布することができた。また、物資配布の前に裨益者全世帯を対象に、感染予防対策の啓発を実施した。内容は、COVID-19の基礎知識や感染予防法、感染時の対応、マスクや手袋など配布物資の正しい使い方等である。また啓発を受け終わった裨益者は、実際に石けんと水を使って20秒間手を洗う実践を会場にて行った。	受益者数 対象コミュニティにおいて特に脆弱な730世帯

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2020年10月7日

報告書名：令和2年度 事業完了報告書 (JPF)

	<p>(2) 新型コロナウイルス感染予防啓発活動</p> <p>啓発活動に関しては、物資配布を行った730世帯への啓発活動に加えて、以下の要領で地区全体へのアプローチを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・啓発用掲示物：3m×6mの大型看板を契約し、交通量の多い4つの公共エリアに設置した。</li><li>・ポスター：130枚印刷し、人が集まりやすいモスク・市場・店舗などの公共機関や、政府機関・民間機関に掲示した。</li><li>・パンフレット：4,000部印刷し、730部は物資配布に同封し、その他は事業実施地区および、その周辺に配布した。</li><li>・冊子：3,000部印刷し、事業実地地区および、その周辺に配布した。またナンガハル県 Kama 郡にある女性センターでの感染予防啓発活動を実施し、参加者に配布した。</li></ul>	対象コミュニティにおいて特に脆弱な730世帯
成果	配布後は、計94世帯を対象にモニタリングを実施した。母数730世帯に対し、要求精度10%、信頼度90%と設定し、サンプル数を94世帯とした。モニタリングの結果、裨益世帯の88%が失業や収入減で日々の食糧を確保することが難しい状況となっているにもかかわらず、全世帯が何も支援を受けていなかった。また全ての世帯が食糧と衛生用品ともに満足したと回答した。裨益者が十分な食糧、衛生用品を有しており、また感染予防に必要な知識を習得していることを確認し、目標が達成された。	
課題と対応策	他事業のスタッフがCOVID-19に感染する事態が起きた。ジャララバードの全職員を2週間の在宅勤務措置としたため、事業の遅れが発生した。そのため、事業期間を延長することで対処した。また、医師免許を持つ当会スタッフを中心に、感染予防対策案について再考を続けた。連携する難民帰還局や運営スタッフに対して、感染予防対策の講習会を開催し、スタッフの知識を向上させた。またスタッフ間で日々注意を促すことで、感染拡大を防ぎ、事業を進めた。	
教訓・提言	本事業においては、COVID-19を拡大させないよう配慮しながら活動することを最優先に事業を進めた。そのため、本事業に関わる現地スタッフ全員に、1日3回の健康チェックを義務付けるなど、体調管理を徹底させた。また、WHO職員から受講した感染拡大防止のための研修内容を、他事業のスタッフに共有するなど、事務所全体での予防対策に努めた。事業期間中に他事業のスタッフの感染が確認された際にも、ジャララバード事務所を閉鎖、全スタッフを2週間の在宅勤務の措置とするなど、早急に対応し第2次感染を防いだ。事業再開後は、感染予防対策の改善を行い、事務所スタッフのみならず、難民帰還局に対しても研修会を実施し、最新の情報を共有することで、予防対策を徹底した。また物資配布時には、会場を布で物理的に区切るだけでなく、裨益者が立つ位置にマークを付けるなど、各裨益者の間隔保持の確保に努めた。裨益者は物資配布の前にCOVID-19の基礎知識や感染予	

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2020年10月7日

報告書名：令和2年度 事業完了報告書 (JPF)

<p>防法、感染時の対応、マスクや手袋など配布物資の正しい使い方等、感染予防対策の啓発を受講し、会場内に設置された手洗い場で、石けんを使った手洗いを実践した。その後に、受領サインまたは拇印による配布物資受け取りの確認を記録するなど、配布会場でも感染拡大防止に努めながら活動を進めた。また COVID-19 感染拡大という、これまで経験したことのない状況の中で事業を進めるにあたり、感染拡大予防、およびスタッフの安全管理を徹底しながら事業を進めるには、当初予定していたよりも時間がかかることが分かった。本事業では、事業地を追加したこともあるが、コロナ禍における治安の悪化なども影響し、事業期間を61日から108日間に延長した。事業地での感染拡大を予測することは困難であるため、想定できる範囲内で余裕をもった事業設計を心掛ける必要がある。</p>
---